平成 22 年 4 月 8 日

病 害 虫 情 報　No. 1

茨城県病害虫防除所

麦類赤かび病の防除を必ず実施しましょう！

【防除開始時期：六条大麦・小麦＝出穂期から穂揃い期に開花を確認した時。
二条大麦＝穂揃い期の 10 日後頃に穂から葯が出ているのを確認した時。】

［現在の状況］

① 農研速報（3 月 31 日および 4 月 2 日発表）によると，六条大麦の出穂期は龍ヶ崎市で平年よりやや早い，水戸市で平年よりやや遅い，小麦の出穂期は平年より早い～平年並と予想される（表 1）。

② 向こう 1 か月の気象予報（平成 22 年 4 月 2 日気象庁発表）によると，平年に比べ気温は低く，降水量は平年並と予想されている。

表 1　麦類の出穂予測値

場所	麦種	品種	播種期	出穂予測値	平年値
龍ヶ崎市	六条大麦	カシマムギ	11 月 10 日	4 月 6 日	4 月 8 日
	小麦	農林 61 号	11 月 10 日	4 月 15 日	4 月 19 日
			11 月 19 日	4 月 25 日	4 月 24 日
水戸市	六条大麦	カシマムギ	11 月 5 日	4 月 19 日	4 月 17 日
	小麦	農林 61 号	11 月 5 日	4 月 25 日	4 月 27 日

農研速報（農業総合センター農業研究所　3 月 31 日および 4 月 2 日発行）より抜粋

［防除対策］

① 六条大麦・小麦は，出穂期から穂揃い期に開花を確認したら防除を開始する。二条大麦は，穂揃い期の 10 日後頃に穂から葯が出ているのを確認したら防除を開始する。麦の生育状況を正確に把握して，表 2 を参考に適期に必ず薬剤散布を行う。

② 本病原菌は，六条大麦・小麦では開花期，二条大麦では穂から葯が押し出されてくる時期（穂揃い期の 10 日後頃）が最も感染しやすい。この期間に降雨が続き，平均気温が 18～20℃以上になると本病の発生が多くなるので，今後の気象に十分注意し，防除を徹底する。

③ 1 回目の薬剤散布後，発病の好適条件が続く場合は，7～10 日後に 2 回目の散布を行う。ただし，出穂期以降 1 回しか使用できない薬剤があるので注意する。

表 2　麦類赤かび病に登録のある主な薬剤（平成 22 年 4 月 1 日現在）

薬 剤 名	希釈倍数	収穫前日数 －本剤の使用回数	対象作物	有効成分
シルバキュアフロアブル※	2,000 倍	7－2	小麦	テブコナゾール
	2,000 倍	14－2	大麦	
ストロビーフロアブル※	2,000～3,000 倍	14－3	麦類	クレソキシムメチル
チルト乳剤 25※	1,000～2,000 倍	3－3	小麦	プロピコナゾール
	1,000～2,000 倍	21－1	大麦	
トップジンM水和剤※	1,000～1,500 倍	14－3 (出穂期以降 2)	小麦	チオファネートメチル
	1,000～1,500 倍	30－3 (出穂期以降 1)	麦類 (小麦を除く)	
ベルクート水和剤	1,000～2,000 倍	21－3 (出穂期以降 1)	小麦	イミノクタジン

注 1）※印の薬剤は，通常散布の他に無人ヘリやブームスプレイヤーによる高濃度少量散布についても登録があります。詳しくは別途確認してください。
注 2）農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認のうえ，周辺作物への飛散に留意して使用してください。